

(2) 本年度の反省・課題

本年度の 重点目標	自分の可能性を追求し さまざまな分野で挑戦できる生徒の育成 ア 学力の向上を図る。 イ 高い志を維持し、納得できる進路目標を達成する。 ウ たくましさと品格を備えた生徒の育成を図る。		
項目(担当)	重点目標	具体的方策	評価結果と課題
安全管理 (総務部)	防災体制の充実	①避難訓練をこれまでの形から、より良いものにする。 ②「きずなネット」の有効的活用。 ③家庭で防災について話す機会を設けるための工夫をする。	今年度は、目標達成のための取組事項については全て実施することができ、成果を上げることができた。 「きずなネット」については、不審者情報を配信するなど、各分掌で利用できるような体制作りが必要であると考えている。
学習指導 (教務部)	確実な教務運営	①業務手順の見直しと、留意事項の確認。 ②チェック体制の充実・整備。 ③新入試制度に対する準備。	①学校運営の中で、教務の業務内容は「正常に進行して当たり前」である。見直し・チェックの体制は確実な教務運営に欠かせないものであり、今後も常に心掛けていく。 ②新入試の実施はこれからである。実際に実施するそのときまで、さまざまな場面を想定しつつミスのない業務遂行に努めていく。
生活指導 (生徒指導部)	交通安全教育の充実	①国道1号線立哨指導 ②イヤホン運転、スマホ運転禁止 ③250日間無事故・無違反ラリー（豊川警察署主催）に参加する。	①1号線横断の安全は学校だけで確保は困難、地域に見守りをしてもらうよう、地域との相互協力体制を築くことが求められる。そのために学校としての誠意を表せるような機会を多くする。 ②「ながらスマホ」が悪いことは理解できていてもポケットに入っていればつい見てしまうのがスマホの特性である。スマホはポケットに入れずにカバンにしまうことを習慣化させる指導が必要である。 ③次年度も引き続きラリー参加をする予定であるが、生徒に関心を持たせ、達成に喜びを感じさせる仕掛け作りをしなければならない。
生徒指導 (生徒会)	生徒会活動への積極的活動を促す取組の充実	①クラスマッチ・文化祭等学校行事の準備段階での意見交換の機会を確保する。 ②ボランティア活動に積極的に参加し、内容・参加募集方法を広く知らせる。 ③常に生徒会活動が伝わるよう広報活動を工夫する。	①本年度の生徒会行事は、生徒主導で行った。時に問題場面も生じたが、次年度への課題にしていく。 ②ボランティア活動の参加が2年生主体であった。次年度より活発にさせるために、1年生への呼びかけをしていく。 ③全校生徒へ、各行事を浸透させるために多くの「生徒会だより」の発行を生徒に促していく。

<p>進路指導 (進路指導部)</p>	<p>自ら考え自ら決断して、 将来に向けチャレンジする 進路指導</p>	<p>①ハイレベル模試や大学見学会などで、生徒自らが考え調べ行動することを促す進路指導を行う。 ②学習法や勉強法などの情報や進路情報（高大接続や入試形態の変更点など）の提供をする。 ③TOEICやTOEFLや英検や数学オリンピックなどへの積極的に参加を促す。</p>	<p>①センター試験受験者の増加（普通科はほぼ全員出願することができた。）3年での各種の大学のオープン模試など昨年以上の参加になり、成績も向上した。 ②進路室の来訪者も朝、昼休み、業後と進路先を調べるだけでなく、学習面での相談も増え利用が増加した。 ③大学見学会は1，2年生合わせて55名が参加した。実験の体験や学部棟の中で説明を聞くことができた。 ④進路説明会や進路講演会を実施して生徒の感想もよく、意識改革に役立てることができた。 2年生のマーク模試への取組など変化がみられた。</p>
<p>教員研修 (研修部)</p>	<p>各教科・分掌との連携を 深めた現職研修の充実</p>	<p>①教務部と連携して定期的に教科主任会を開催する。 ②言語活動の充実やICTの活用など、課題発見に向けた主体的協働的学びとなるような授業の実施を呼びかける。 ③各種教員向け研修への積極的な参加を促す。</p>	<p>①各教科で「授業アンケート」から見える学年別の傾向や、授業改善への取組及び授業評価のあり方等について話し合い、検討することができた。 ②今年度から第2回公開授業週間を11月に変更したが、学校視察が入ったことや、3年生普通科では演習を中心とした授業も増えてくる時期のため、教育実習期間と重なった第1回と比較するとやや参観者が少なめであった。教科会とも連携して「授業アンケート」の実施時期や活用方法についても検討していく必要がある。 ③市内の中学校の公開授業には多くの先生方が参加し、中学校に於ける研究実践のあり方を知る良い機会となった。10年経験者の課題研究発表会を2月に実施した。</p>
<p>図書館活動 (図書部)</p>	<p>図書館活動の活性化</p>	<p>①広報活動の柱である「図書館だより」の紙面をパワーアップし、多くの生徒が見たくなるような内容にしていく。また昇降口の「広報ボード」を定期的に刷新し、図書館からの情報を積極的に発信する。 ②「朝の読書」活動を最大限に生かすべく、図書館から効果的なサポートを行う。 ③授業やLT等での図書の紹介や図書館での活動を積極的に図書館から依頼・発信していく。</p>	<p>①図書貸出し冊数は、4月を除くと過去5カ年の中で最も多くか2番目に多った。また一日の平均利用者数も過去10年間の中で、10月は29.6人、11月は32.7人と最も多かった。 ②図書委員の活動の一環として、ポスターやPOPの作成などを行ったが、なかなか図書貸出冊数の大幅な増加にはつながらなかった。今後は、特に新規利用者増加につながる啓蒙活動を進めていく。 ③生徒からの図書リクエストが少なかった。今後は生徒の需要を色々な場面でくみ取っていく。</p>

<p>学校保健 (保健部)</p>	<p>学校管理下（部活動、学校行事）におけるけがの減少</p>	<p>①事故発生状況を集約するとともに、全職員が周知し、未然にけがを防ぐように努める。 ②救急講習会や「熱中症予防」の講演を通して理解するとともに、未然にけがや熱中症を防ぐように努める。 ③「保健だより」に月ごとのけが発生件数を掲示し、保健委員が教室で報告することにより、けが防止を啓発する。</p>	<p>①けがの減少に努めてきたが、ここ数年で最も高い数値となった。体育的行事及び部活動によるけがが増加しているため、担任や部活動顧問と協力しながら対策を講じる必要がある。 ②生徒対象の救急法（AED）講習会を実施しているが、教職員の参加が少ない。次年度は教職員向けの講習会を計画する。 ③保健委員が「保健だより」をクラスで報告する形式は軌道に乗った。次年度も継続して行い、自らが防止をするための意識の向上と防止の方策を考えさせるようにしていく。</p>
<p>学校保健 (教育相談部)</p>	<p>高校生活にうまく適応できない生徒の早期発見と個性に配慮した適切な対応</p>	<p>①生徒の個性や家庭環境なども配慮しながら、適切な教育相談を行う。 ②教育相談委員会を定期的に実施し充実させる。 ③欠席、遅刻、早退の状況把握を行う。</p>	<p>①問題の早期発見と、個性に応じた対応によって、学校不適応から立ち直っていく生徒も現れた。 ②生徒によっては回復や適応に時間がかかり、対応に難しいケースもあった。 ③相談委員会で綿密な情報共有を行い、カウンセラーを含んだチームとして複数の教員で対応することができた。</p>
<p>情報管理 (教育情報部)</p>	<p>校務支援システムの導入準備</p>	<p>①校務支援システムの操作ガイドを理解する。 ②在校生データを入力する。 ③現行システムとの整合性をチェックする。</p>	<p>①膨大な業務がこのシステムに盛り込まれており、マニュアルを完全理解することは困難。 ②データの作成までは終わった。学年進行で作業を進めているので、要録の項目の修正を行った後、進級時の作業をこれからも継続して行う。</p>
<p>商業科 (商業科)</p>	<p>入試制度に左右されない魅力ある商業科づくり</p>	<p>①科目「課題研究」を利用した魅力ある商業科づくりを行う。 ②さらに幅広く高度な学力を身に付けさせ、多様な進路を実現させるために進路指導と授業の見直しを行うことによって魅力ある商業科づくりを行う。 ③日頃の指導をとおして、生徒に商業科生徒であることの誇りと自信をつけさせる。</p>	<p>①総合ビジネス科へのビジョンをさらに確固としたものにする必要がある。 ②安易に推薦入試を選択させることなく、基礎学力を身につけさせながら専門性を活かした（さらに専門性を高めることができる）進路実現を目指す。 ③課外授業において毎回特定の生徒の参加が得られなかった、課題の提出も同じである。 ④アクティブラーニングの意味を考慮し、呼びかけだけでなく、真に生徒の主体的な学習取組姿勢を引き出し、深い理解力や洞察力を身につけさせていく。</p>

<p>学年会 (1年)</p>	<p>自己理解をもとに主体的に学び、良識ある言動が行える生徒を育成する学年指導。</p>	<p>①授業を大切にすることを育成するとともに、家庭学習の定着を図る。 ②多くの知識と自己理解に基づく進路設計ができるように努める。 ③部活動や学校行事を通して、良識ある社会人としての素養を養う。</p>	<p>①学年通信を通して、連絡事項の徹底や、家庭学習の定着を図ることができた。今後は、より丁寧に問題に取り組むように、内容の精選や意識付けを行っていく。 ②進路情報の提供が十分できなかった面もあるが、類型選択に関しては大きな変更無く決定することができた。来年度は文理別により丁寧な情報提供を図っていく。 ③さまざまな学校行事を通して、ある程度主体的に行動できるようになってきた。今後はより生徒中心で行事を運営できるように、学年行事などを通して指導していく。</p>
<p>学年会 (2年)</p>	<p>充実した学校生活を通して主体性を醸成し、自己成長力を高める学年指導</p>	<p>①中堅学年として学校の中心的な役割を担うことを自覚させる。 ②基礎学力の定着を計るため、家庭学習と授業を大切にさせる。 ③進路意識を高め、前向きに学習に取り組ませる。</p>	<p>①部活動との両立をはかり、一定の成果を得ることができた。3年生の最後まで頑張り抜けるような援助や指導を心掛けていく。 ②後半、課題をやりきれない生徒も出てきた。今後、個別の指導や習熟度に応じた課題設定、教科間での調整などが必要と思われる。 ③高い目標をもち、進路意識が高まった。この目標を達成させられるような学習指導や進路指導を心掛けていく。</p>
<p>学年会 (3年)</p>	<p>進路目標の実現</p>	<p>①業後及び土曜日の学習会を実施し、積極的に参加させる。 ②課外や模試・各種検定に意欲的に取り組ませる。 ③自らの進路を設計するために、適切な情報を提供する。</p>	<p>①塾に通う生徒が多くなっているが、上手く利用できている生徒はごく限られていると思われる。 1学期には目覚ましく成績を伸ばしても、秋以降に伸び悩む生徒が少なくない。3年間を通しての学習方法の指導が必要である。 ②課外や模試においては多くの参加があったが、①と同様、講義を聴くだけという受身な態度が見られる。 ③説明等、丁寧にしてきたが、受験直前まで受験の仕組みを理解していない生徒がいた。進路説明の仕方を再検討すべきか。</p>

(3) 学校関係者評価結果等

<p>学校関係者評価を実施した主な評価項目</p>	<p>①授業研究、授業評価を通して授業力を向上させることができたか。 ②納得のいく進路実現のために年間を通して有効な働きかけができたか。 ③国府高生としての自覚のもとに学校内外で行動できるよう指導できたか。</p>
<p>自己評価結果について</p>	<p>授業改善等により授業の充実を通して学習意欲の喚起を図り、学力の育成及び向上に努めた。結果として学力の伸長を実感できるようになっている。まだ全ての授業で成果があったとは限らない。次期学習指導要領や大学入試改革の新たな潮流を確かにとらえ、個々の教員の努力はもちろんであるが、教科として研修を心掛けるなど学校全体での取組を次年度の課題としたい。</p> <p>東三河高大接続会議の進めるラーニングフェスタに1年生のほぼ全員が参加をした。生徒は意欲的にこうした進路の行事に取り組み、将来の進学に向けたモチベーションの向上に役立っている。この成果をどのように次へ発展させるか、次の段階へいかに働きかけるかが今後の鍵となる。所謂中だるみの時期を乗り切るとともに、高い志を育てる方策を考えたい。</p> <p>部活動は成果として上位大会への出場や顕彰もあった。結果の有無にかかわらずよく健闘している。「文武両道」の精神を再度確認し、学習と部活動の両立という困難な課題の克服に取り組みたい。活動時間を厳守し、メリハリのある活動により学習時間の確保と学習意欲の維持に期待する。</p>
<p>今後の改善方策について</p>	<p>今年度初めて実施した生徒の授業アンケート評価からも「主体的・対話的で深い学び」への期待が感じられる。個々には意欲的に新しい取組が始まっているが、まだ個人の努力に留まっている。次年度は教科主任会を柱として教科横断的な意見交換や全体の把握に努め、他校の事例発表を伝達還元するなど授業改善に向けて研修の充実を図っていく。</p> <p>進路目標の達成については、進学・就職ともに生徒の志を育むという視点を重視したい。進路希望調査を基に関係職員間で常に生徒を育てる意識をもって情報交換を行っていく。教科会や学年会で模試結果や資格検定結果を分析し、日々の授業に活用していく。</p> <p>多忙な毎日の中で時間を捻出する苦勞を感じている。職員のワークライフバランスを考えるとともに、職員間の意思疎通と協力体制の強化を図りたい。</p>
<p>その他（学校関係者評価委員から出された意見、要望）</p>	<p>課外授業等も先生方の御協力により今年も実施することができ大変感謝している。しかし今年初めて行った生徒アンケートによると、いろいろな制約のため課題も抱えている様子も読み取れる。難しい点はあるかと思うが、生徒アンケートをもとにできる点から改善をお願いしたい。</p> <p>商業科の反省にあるように、将来商業科出身であることにプライドを持つ生徒を是非一人でも多く育ててほしい。</p> <p>登下校時の生徒の安全を確保するために、学校周辺の道路にグリーンベルトを引いてはどうか。市に学校から要望していただきたい。</p>
<p>学校関係者評価委員会の構成及び評価時期</p>	<p>構成：学校評議員5名（PTA会長を含む） 評価時期：2月上旬</p>

